

宗祖弘法大師青葉祭祭文

敬つて、真言教主大日如来金剛胎藏两部界会諸尊聖衆、

殊には宗祖弘法大師、総じては仏眼所照一切三宝の境界に

白して言さく。

夫れ惟んみれば秘密曼荼の法門は現証仏果の直道にして

密嚴仏国の大旆は濟世利人の標指たり。

斯の故に宗祖大師は大慈憐閔の背を廻らし玉いて衆生の

苦患を救い賜い、大悲の哀惋を催しては、閻浮加持の行法

に勤しみ賜う。誠に是れ撰化衆生の妙行に非らずや。

茲に本日、秘教請來の宗祖弘法大師の嘉辰を迎え、虔み

て東方山安養寺觀音堂において、本尊觀世音菩薩に香峯

供物を捧げて以て宝前に献じ奉る。

顧みるに、宗祖弘法大師は宝龜五年六月十五日、讚岐

の国屏風ヶ浦に誕生し賜い、志して勤操大徳の法袖に入り、

長じて万里の滄海を渡り、唐の国へ。都の西安において、惠

果阿闍梨に随い、三密の法門を普く相承す。今、日本の

しゃもん

しやうぎやう

くわんしん

なやしやびやう

沙門来りて聖教を求むるに悉く心に受く猶瀉瓶の如し」と

けいかあじやり

著者の性靈集に掲載。弘法大師は恵果阿闍梨から全ての教

びやう

えを授かる。それはまるで、水をもれなく瓶から瓶へ移すよ

くわんしん

つ

うなもの、このように、師の教えを悉く継いでいる者を瀉

しゃ

びやう

瓶の弟子」という。

唐に留まること二年にして大同元年秘密曼荼の法、即身

成仏の秘教を扶桑の地我が国に伝え賜う。然かれば即ち如

来の教法を以って有情の混迷を救い、日本国津々浦々に密教

いよいよけつじつ

の教え愈々結実す。誠に偉大なる哉。大師の洪業筆舌に尽

し難し。

安養寺熊谷俊亮任職は、宗祖弘法大師のこの洪業の一つ、

四国四県にまたがる四国八十八カ所霊場の巡拝を「修行の場」

と定められ、一人でも多くの人々を誘い大師信仰を広めんと、

御歳三十二歳から始められ、本年で四十年間に亘る淨行を

成し遂げられる。全行程千五百キロを九泊十日の満行の遍

路で、今年もいつものとおり去る三月二十二日に出発に当た

り、十九人の同行者は、本尊薬師如来に詣でる。俊亮任職

導師のもとに道中安全、無事成満を至心に祈念す。その頃

の境内はまだ長い冬眠からさめようとはせず、枯枝が静止して、

ちぢ

そのうえ、そば降る雨に打たれ寒さで手足も縮かむ。かくし

て四十年を継続して俊亮任職は老境に達させられて七十二歳

に。されどその胸中には、常に弘法大師のみ教えにある「菩薩は利生の為に縁に随って化して尊を作る」、すなわち「心を磨くためには、あらゆる努力をして己を捨て、人々の幸福の為に奉仕しなければならぬ」との実践に励まれているもの。四国霊場にあまねく人々をお連れし弘法大師のみ跡をたどり同行二人の信心を体得されるよう尊い巡拝行を続けられている。確かに一人では果たせない難行苦行も俊亮住職のような道心堅固にして教化のバネをもつ指導者に導かれると目の前が明るく、一日が瞬く間に過ぎゆく。無明の自覚が光明遍照十方世界に転換されるのである。

このたびも打ちそろって高野山奥之院に詣でて無事成満を報告し、京都では真言宗立教開宗の東寺、安養寺の本山御寺泉涌寺へ。泉涌寺では上村貞郎長老より親しくお言葉を賜わり満願を讃えて戴く。

それ以後およそ二ヶ月を経て本日、安養寺寺容は新緑の滴るなか華麗に咲き、咲き誇れしシャクナゲを賞美して宗祖したた降誕の青葉祭まつりを執り行う。僧俗一体となって鈴鐘を鳴らし大師流慈苑講のご詠歌を高唱して、さらにその功力を普くする大般若を至心に転読。次に読誦して降誕慶讚ほうえんの法筵を結ぶ。

然れば即ち海獄かいごくの恩徳に報謝し、併せて教風恢宏きょうふうかいこうの決

意を更に新たならしめんとす。

乞い願わくば、高祖弘法大師さま、功德を証明し賜い、

吾等の微志を納受し賜いて、その善根を成就せしめ賜わらん

ことを。

重ねて乞う。

世界平和

万民豊楽

風雨順時

五穀豊饒

紹隆仏法

弘法大師

倍增法楽

檀越安穩

講運隆昌

乃至法界

平等利益

平成三十年五月二十七日

京都府向日市寺戸町

西垣内十五一六四

亀光庵

土口哲光敬白